

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101693		
法人名	一般財団法人弘潤会		
事業所名	グループホームほのぼの小松		
所在地	宮崎市小松1173-5		
自己評価作成日	平成25年6月25日	評価結果市町村受理日	平成25年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4570101693-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用年数の長い方も居られ、だんだん体力の衰えはあるが、入所時と変わらない関わりを持つことで、体調に大きな変化も無く、毎日をのんびりと生活されている。以前のように歩いている散歩に行くことも出来なくなっているが、庭でお茶を飲んでもらったり、季節ごとに外出・外食をすることで、施設内だけの生活にならないようにしている。職員は、毎日の業務の中でどのようにしたらその方にとって良い方法であるかを、毎日試行錯誤しながら関わっています。自己研鑽のための研修参加や法人内の勉強会、施設内の勉強会も実施することで、スキルアップにも取り組んでいる。そして、やっと地域の方との交流も出来るようになり、防災訓練、施設での避難訓練の協力、各種行事への参加もスムーズに出来るようになった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当時の理念を全員で話しあって、地域とのつながりの言葉を多く盛り込み、利用者一人ひとりが地域の一員として安心して過ごせるよう、ホーム全体で取り組んでいる。管理者は、職員が働きやすいよう常に心掛け、利用者に反映することを望み支援している。職員もそれを理解し、日常生活のケアに取り組んでいる。地域とのつながりにも心を配り、隣接している事業所とも協力体制が出来ている。自治会内の行事にも参加し、活動している。職員の研修会にも進んで参加し、利用者一人ひとりに反映出来るよう全員で取り組んでいる。管理者、職員とも災害対策も含めて、地域との交流の大切さを感じるようになっており、現在ではホームへのボランティアも受け入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関リビングに貼っている。職員が入れ替わっている、再度全職員に周知する。	全員で話し合い、設立当初の理念を手直しし、目の届く所に掲示している。職員は、日中利用者との会話やケアを行いながらも意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	賛助会員。行事や体操教室、ふれあい会食会に参加。防災訓練、地震を想定した図上訓練にも参加もした。地区の総会、班長会に参加し、利用者への理解を深めて頂きたいとのお願いに、快い返事をもらった。	地域で行われる体操教室やふれあいサロンにも、利用者と職員で参加している。自治会で行われる集会や地域防災訓練にも出席している。ホーム内の行事にも、地域の方に来てもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の場で民生員さん立ちに伝え、地区に働きかけをしてもらっている。また、普段から、近くの住民の方たちには認知症の方たちの施設であること、外に出られたら戻れないこと等は説明してある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、偶数月に開催。日頃の活動報告や困っていることには、気持ちよく協力を頂いている。地域との交流についても都度、情報をもたらえることで、地区の方との交流が増えた。	当初は、ホームからだけの説明になり、少人数の家族からは、家族代表の出席について反対の声もあったが、現在では、毎回出席されている。また、地域の方々から地域の状況を教えてもらい、それらを活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、運営に関する質問をしたり、関係機関や県、市の開催する研修、勉強会には積極的に参加している。アンケート依頼等にも協力している。	聞きたいことがあると、市役所に直接電話で聞いたり、事務所に聞いてもらって報告を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊のあった利用者の入所に際し、家族希望で、一時玄関に鍵をした。今は、入院後の体力の衰えで日中は掛けていない。他にも夜間に離設された方が居られるので、夜は鍵をしている。	外に出たい思いの強い人がいて一時期玄関の施錠をしたこともあったが、全員で話し合い、見守りに力を入れ、現在は行っていない。言葉や行動については、常に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待防止の研修や勉強会に参加している。施設内でも、虐待防止の研修会をしている。今まで当施設内での虐待はない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加、施設内での勉強会も実施した。現在、後見人を利用されている方もあり、職員は意識している。未研修の新人職員も機会があれば研修に参加予定。運営推進会議の議題にも上がり話し合った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の申し込みや契約時に十分な説明をしている。問い合わせがあれば、都度説明する。介護報酬の改定の際にも、重要事項説明書において説明了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から親しく会話できる信頼関係を築いており、意見や要望には早めの対応を取っている。来所時にも、何か要望や意見が無いかをお尋ねしている。	本人、家族の要望に早めの対応をしている。日常のふらつきが見受けられるようになったら、家族にすぐ連絡を取り、掛かりつけ医との話し合いをしたり、他のことでも常に早めの対応で支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人が大きく、代表者に直接意見を上げることはない。管理者が代表して要望を上げる。事務局からの伝達事項も、漏れなく職員に周知している。管理者で対応できることは職員と話し合い、業務に反映させている。	管理者で対応のできることは意見を聞き、話し合いで良い方向へ進めているが、ホームへの意見の時は、法人側から管理者に報告があり、管理者から報告する仕組みになっている。相談をしやすい方法で意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員は、きちんと人事考課がなされている。福利厚生も良い。職場環境や対人関係も良好である。勤務環境も都度何かあれば、改善の要求が出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修には誰でも参加できる。資格取得に関する法人内研修もある。今後も、どんどんスキルアップになる研修等には参加させていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に加入。年3回程度の講演、研修に職員も参加している。年2回の地区のケアマネの勉強会の企画にも参加している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用が決まりそうな時は、面会に行ったり施設に見学に来てもらったりする。その際は、本人の情報をあらかじめ把握することや、家族との連絡を取り合い、本人に不安感がないように接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時から、困っておられること、入所に際しての不安などを伺い、家族と一緒に相談しながら、安心して入所してもらえるように信頼関係が築かれるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時点から、家族の要望、本人の様子を把握し、どのようなサービスが必要かを家族とともに考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家族と一緒に生活をするという気持ちで、喜怒哀楽や悩みを共有し、互いに共通の話題、趣味や興味のあることなどを通して信頼関係を築いている。また、能力に応じ出来ることはお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や問い合わせ時には、日々の様子を都度報告することで家族は安心される。また、機会有るたびに外出もして下さる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方から面会に来て下さったり、法事の際に自宅に戻られることもあった。その際に近所の方との触れ合いもあった。必要に応じ、掛かりつけの病院受診の同行も行っている。	本人や家族の協力をもらいながら、会いたい人や行きたい所があると支援している。お正月、お盆の外泊や知人等の来訪時の外での買い物などを喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の見守りの中で、協力しながら洗濯物たたみをされたり、分け合っ小物の名前書き、新聞やちり紙たたみ等が出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られたり、入院されたりした時は、職員が交代で見舞いに行ったりしている。何度も行くことで、相手の職員などからの情報も入手でき、退院された時の対応等で家族とも相談しやすくなる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、今までの本人の歩んで来られた人生を思いやり、どうされたいのかを聴いたり、何をしてもらいたいのかを察することで、ニーズの把握が出来るようにしている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を利用して、一人ひとりのニーズを把握している。利用者との会話や触れ合いの場を多くするよう努め、本人や家族が何を望んでいるかを察知出来るよう、全員で取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族に分かる範囲で書いてもらう。入所後の生活の中で、本人の言葉で聞いたり、性格や今までの習慣なども知るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの得手、不得手なこと、力量を把握し、今までの生活環境、身体レベルも考慮して、毎日のケアに生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所された時点から、施設に馴染んでもらえるように、また、より良く暮らしてもらえるように家族、職員が知恵を出し合いながら、本人にとって何が良いかを考えながら介護計画に反映させていくようにしている。	入居時からの取り組みである家族との連絡を密にすることを生かして、利用者本位の介護計画を作成している。アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、本人の現状に近い介護計画が反映されるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアは、個別に記録実践。結果の気づき等を記録に残し申し送る。モニタリングを行う際の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合で受診に行けない時や、都度発生する個別処置やケアなど、必要に応じ対応している。散歩に行けない時も、庭に出てお茶を飲んで、気分転換をするようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の行事や体操教室、触れ合い食事会に参加の機会がある。また、近所の散歩の際に会釈をしたり、声を掛けてもらうこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所されるまでのかかりつけ医にそのまま継続してかかることが出来る。必要な方には、ほのぼのまで往診もして下さる。	入居までの受診状況を把握し、それに応じている。かかりつけ医との話し合いを密にし、眼科、歯科、認知症の専門医の受診につなげている。本人、家族の希望があれば、往診も受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用。その際、何かあれば気軽に相談も出来るし、適切なアドバイスもある。隣接している系列の看護師にも相談出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の必要があれば、関係病院と連絡を取り合い、入院に向けた対応をしている。面会に行くことで、情報を得ることも出来、退院後の係わり方がスムーズに出来る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要と思われるような状態になった時は、施設、家族、主治医、本人と話し合いを持ち、全員が共有した対応が出来るように指針に添って対応したい。最近も食事の摂れない方に対し、家族とどうするかの話し合いをした。	本人や家族の思いを早期に話し合い、安心して日常生活が送れるよう、入居時の重要事項にも盛り込まれている。関係者を含み、全員で共有できるよう、研修会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員ではないが、研修や訓練、ミーティング等で勉強はしている。研修の済んでいない職員もあり、いざとなったら事故や急変時にどこまで対応できるかは分らない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	系列には、隣接の施設、病院他事務局などがあり、協力体制はある。自治会や消防といった地域関係者とも交流があり、防災訓練、図上訓練参加に参加し、お願いはしている。災害に備え、食料などの準備もある。	地域の火災訓練に参加したり、隣接の事業所との連絡も密にしている。また、近くの高層病院への避難訓練も行っている。備品も準備し、避難対策を全員で支援し、実践している。利用者にも説明している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	耳元で小さな声で行う。見守りもさりげなく行う。入浴の際は特に対応に注意している。訪室の際はノックをしている。申し送りなども、本人に分からないようにイニシャルで言うこともある。	年長者としての敬意を払い、日常の介護時にも態度や言葉に心配りが出来るよう対応している。排せつには特に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	見守りの中で、どうされたいのか、何をして欲しいのかななどを察し、判断出来る方には自由に過ごしてもらったりしている。10時のお茶は、各自好きなものを選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、その人らしい生活が出来るようにしている。本人のペースや希望に添い、支援している。部屋でゆっくり横になられる方もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方には、服を選んでもらっている。髭剃りは準備や仕上げはするが、自分で剃ってもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、給食という形を取っている。それぞれの歯の状態や好み、熱さなどにも対応している。下膳は出来なくても重ねることはされる。本人のペースでゆっくり食事してもらっている。	ホームでは、普通食の配色サービスを利用しているので、利用者の好みが見事に反映される機会がない。食べやすい大きさに職員が手を加えたり、月に2回は、好みのおやつを手づくりしている。	食べたい物のアンケートや聞き取りなど行って、利用者に楽しみを持ってもらえるような取組にも今後期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	希望があれば量を減らしたり、お変わりも可能。食事量、水分量の把握。好みの物で提供したり、刻んだりしている。自力摂取出来ない方達には介助をしている。出来る方でも体調を見て対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後は必ず口腔ケアをしている。出来る方には自分で磨いてもらい、仕上げは布か歯間ブラシの使用で全員に介助。うがい水を飲まれる方にはお茶で対応。系列の訪問歯科による往診、治療もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれのパターンを把握している。時間帯によりパットの使い分けやそれぞれにあったパットを使い分けている。全員トイレ誘導で対応している。オムツの使用の無い方も居られる。	利用者のパターンを知り、時間を把握してオムツの種類を考慮したり、全員トイレでの排泄を目指して、自立の支援につとめている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれのパターンをしっかり把握している。下剤の調節と、腹部のマッサージをしたり、起床時の飲み物を工夫している。また、午前中には体操で体を動かしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別にゆっくり入浴される。入浴時間はそれぞれであり、希望者は毎日でも入浴は出来る。入浴されない方で必要があれば、陰部洗浄をしている方もある。	一人ひとりのこれまでの生活習慣や希望に合わせ、日時を決めたり、毎日の入浴も支援している。拒む人には、会話や音楽を流している。その日によって、部分洗浄も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日のスケジュールはあるが、居室でゆっくりされたり、昼食後は昼寝をされる方もある。その際は、カーテンを引いて光の調節をしたり、空調にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は行っているが、自分で飲める方には手渡しで飲んでもらっている。受診時には、最近の様子や状態を家族からDr. に伝えてもらっている。戻られた際にも必ず確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの出来ることで、手伝いをお願いをしている。うまく出来なくても、職員や他の方と一緒にすることで、楽しく会話したり、笑顔になられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ散歩に行く。歩けない方でも車椅子で近くを散歩出来る。散歩に行かなくても庭のスロープに出ての日光浴をしたりも出来る。地域の行事に参加したり、体操教室への参加なども出来る。家族と外出されることもある。	通常散歩と特別散歩に分け、ホームの近くやホーム内のスロープを利用した散歩、日光浴を車いすの利用者の方も一緒にするのが通常散歩になっている。特別散歩は、地域サロンの体操教室や時々みんなで行く外食、家族との外出も特別散歩になる。さまざまな工夫を考え支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお小遣いとして、預かっているお金はある。おやつを買ったりされる方もあったが、今は買い物に行ける方が居られない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今は電話での会話が出来る方は居られないが、郵便物の受け渡しなどはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの強い夏場は、御簾を使用し日光を遮ったり、年間を通して、程よい明るさや空調の調節、また、テレビの音量などの調節を小まめにしている。四季折々で花を飾ったり、庭にも花を植えたりしている。	ホームは、清潔で安全に過ごしていただけるよう常に利用者に意見を聴き、対応している。調査当日も、床の水こぼれや室内に流れる音量にも気を配り見回っていた。利用者との手作り作品である季節の花が壁に飾っており、生活感にも気を配り、工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中、リビングで過ごされる時の座る場所はほぼ決まっている。椅子には、それぞれの名前が貼ってある。昼食後は、ソファで過ごされる方や、居室で昼寝をされる方も居られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具を持ち込まれている方も居られる。都度、必要があれば模様替えをしたりもする。転倒される方が一人おられ、その方は床にじゅうたんを敷いて、布団で休んでもらっている。	入居時に、本人や家族の希望に沿って部屋に置く物を決めている。壁には、本人の好みの品が飾っており、中には本人の希望で何も飾っていない方もいるが、それぞれが居心地良く過ごせる工夫がなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりがあることで、歩行が不安な方も一人で歩くことが出来る。また、目印や張り紙をしたりすることもある。移動時は、必ず付き添っている。		